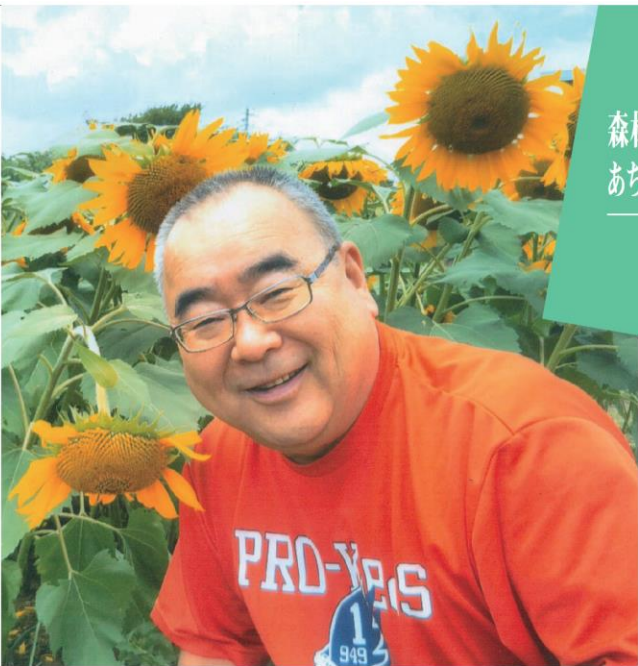


森林の楽しみ方をご紹介します
あちこちに芽吹く命を楽しんで

高橋正二さん



神奈川県出身。山梨県庁で林業改良指導員(Ag)や林道の測量・設計に30年間従事する。退職後、帰郷し、森林組合の参事を2年間務めて、林業経営の知識を深める。49歳で独立「高橋林業」を設立。経営基盤の強化に努めると同時に、手厚い福利厚生を整えて人材育成に注力。林業のイメージ刷新に意を注ぐ。

株式会社 高橋林業

☎ 042-689-2848

現在、声高く自然保護が叫ばれているのは、森林が人間にとつてなくてはならないものだからだ。私たちが散歩に出かける地元の山のみならず、大規模な土砂崩れや洪水・浸水といった都市の住民にも被害が及び得る災害から守る森林、また防風や松原のような潮を防ぐ保安林や魚が産卵する魚つき林など、私たちの周りには様々な森林があり、命の根本を支え、より心を豊かにしてくれている。

そんな山をもっと身近に感じることができなのが、春先である。もちろん気候によつて風景を変える山は、四季折々に美しい姿を見せてくれる。その中でも、山桜やたんぽぽ、スミレ、野イチゴの花といったように色とりどりの花を咲かせ、青々とした緑の葉が芽吹く春先に野山を歩くことで、たくさんの方々に野山を歩くこと満喫し、心身共にリフレッシュできることは間違いない。



寒い冬を過ぎれば、待っているのは暖かく花咲く春。陽気の中若葉や美しい花を愛でながら歩くのは心が躍る。日本人の心には、悠久の昔から森林のある生活が根付いている。ビルが並ぶようになった現代だからこそ、自然に親しむことの尊さを噛みしめたいものだ。

自然の恵みがいっぱい！ 準備万端で山へ出かけよう

「春はタラの芽やコゴメ、ウド、ワラビ、フキなどの山菜がたくさん採れます。山を歩いているとびつくりするくらいタラの芽がたくさん自生しているところに遭遇することもありますね。代表的な山菜料理である天ぷらはもちろん、混ぜご飯や和え物、炒め物などにしても楽しむことができます。簡単に食卓のプラス一品としてもちょうどいいし、実際に山菜を採るところから味わってみるのはいかがでしょう。高級なステーキでなくても、山には美味しいものがたくさんありますからね。大量に芽吹いているものをリュックに詰め込んで、隣近所におすそ分けをするのも楽しみの一つ。これらの食材を見つけたときの喜びは、宝物を見つけた時のようにとてもうれしいです」



高橋さんは、高い山は、天気が変わりやすいことも教えてくれた。やはり晴れた日のほうがウォッチングや山野草などの観察をしやすいので、天気予報を確認し、いざという時のための雨具や防寒ウェアや水、アメ、チョコレートなども準備して山に臨みたいものだ。

気楽に、近所の低山から山歩きを始めてみるのはいかがだろうか。
(ライター/大嶋ひかり)

暮らしの支えとなる森林 自然が見せる 「これからの未来」

世界第2位の有数の森林大国、日本。国土の約7割以上を森林が占め、悠久の昔から、人々は山と共に生活し、暮らしを支えてきた。先人は、山の恵みを衣食住に活かし、絶やすことなく繰り返し資源を活用してきた。綺麗な水や空気を作り出し、動植物の生態系を守り、人々に潤いとやすらぎを与え、さらに樹木が二酸化炭素を吸収し、酸素を作り、地球温暖化や土砂崩れや洪水などから守るなど、多様な公益的機能で森林は、人類に大きく貢献している。

「私の子ども頃は、山や森林で遊び、嬉しいこと、楽しいこと、危険なことを自然から学び、体験し、森林と共に育ってきました。今考えると本当に山から教わったことが多いように思えます。しかし近年、私たちはほとんど山や森林から離れてしまい、人間としてのゆとりを失ってしまったように思います。都会のコンクリートジャングルの中では、心から疲れて落ち着かない気がします。やはり山や森には、人工物に囲まれた環境には無い豊かさがある。私は癒され、疲れがとれます。今一度、森林の大切さに思いを寄せ、皆の力で後世のために活力ある森林を創り、守りたいと思っています」

山歩きのプロである「株式会社 高橋林業」代表高橋正二さんに、春の野山の楽しみ方をベテランの視点からレクチャーしていただいた。